

大使の立場で意見を交換

ノートルダム清心女子大学

ノートルダム清心女子大学（岡山市）において去る12月11・12日、「Okayama Model United Nations (OKAMUN)」が開催された。OKAMUNとは、岡山県



各国の大使になりきり、英語で白熱した討論を展開

で毎年開催されている模擬国連の大会だ。

今年度は、対話を通じて社会への関心を深めることを目的に展開されている「自立力育成ゼミV」を受講している岡山の学生をはじめ、岡山大学（岡山市）と神戸学院大学（神戸市）の学生40人が参加。昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響によりオンラインでの開催となったが、今回は2年ぶりに対面式で開催された。

今回ノートルダム清心女子大学の学生は、「エジプト」「中国」「ハンガリー」「南アフリカ」「オマーン」「コスタリカ」など18カ国の大使となり、自身の担当する国についての問題点を深く調べ、それ

らの課題について他国の大使と英語で熱い意見交換を繰り広げた。

学生たちは会議開始直後、上手に発表ができるのかと、不安に感じている様子も見られた。しかし、会議が進むにつれて、次第に自分の英語力に自信がついてきたのか、各国代表の「大使」として堂々と意見を発表していた。

今回のOKAMUNで、同大の学生は多くの刺激を受けただけではなく、英語によるディスカッションを通して具体的な改善点を見つけることができ、さらに英語力の向上にもつながったのだという。

今年6月には、「日本大学英語模擬国連 (JEMUN)」がノートルダム清心女子大で開催される予定だ。関西圏以外の大学が主催校となるのは同大が初のケースということもあり、大会成功に向けてOKAMUNに参加した学生を中心に入念に準備が進められている。